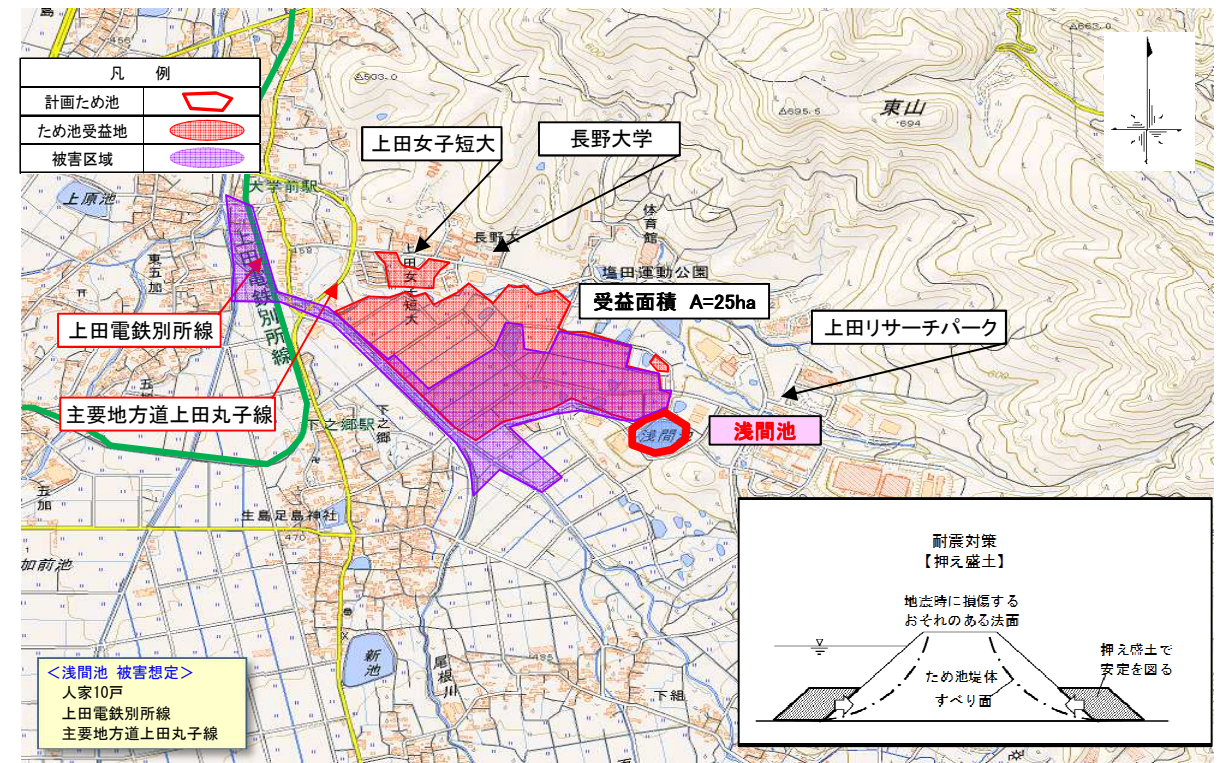


(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名		県営農村地域防災減災(ため池補強)		路河川名等	-		
事業毎の通番		3	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	浅間池(あさまいけ)	
事業概要	事業目的	近年、大規模な地震が頻発しており、今後も多くの災害の発生が危惧されている。本地区のため池について、老朽化が進行していることや耐震性が不明であったことから、平成26年度に耐震性調査を実施したところ、堤体上下流の法面で、地震時に必要な耐震性を有していないことが判明した。 このため、早急にため池の耐震補強を行い、災害の未然防止による、地域の防災安全度の向上と農業生産の維持及び農業経営の安定を図ることを目的とする。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	土地改良法		
	関連する事業、計画等	第2期長野県食と農業農村振興計画、第7次土地改良長期計画、長野県強靱化計画、長野県地域防災計画、上田市地域防災計画					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	直接被害農地 14ha、受益農地(間接被害農地) 12ha 人家 15戸、公共施設(上田電鉄別所線、県道 ほか)					
	着手年度	平成30年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	1.3		国庫	117,150
全体事業内容(主な工種)	ため池工 N=1箇所(堤体補強 L=155m)			213,000	23,430	65,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物生産効果(干ばつ被害による減産が防止できる) 災害防止効果(ため池の決壊による農地、農業用施設、農作物、人家、公共施設等への被害を防止できる)					
	間接的効果(定量的・定性的)	優良な農地が保全されるため、国産農産物の安定供給、地産地消が図られる。 ため池や農村景観が保全され、観光資源となる。					
評価の視点	必要性	○保全対象の人家戸数 : 15戸 ○保全対象の公共施設 : 上田電鉄別所線、主要地方道上田丸子線 ○保全対象の農地、農業用施設 : 農地 26ha ○保全対象の避難場所等 : 無				評価	A
	重要性	○ため池依存度 : 依存度 大(他に水源なし) ○ため池受益面積 : かんがい面積 25ha ○地域防災計画上の位置づけ : 県及び上田市の地域防災計画に位置付け				評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.3 ○事業期間 : 5年間(H30~H34) ○工法等の比較検討 : 耐震工法の比較検討を実施				評価	A
	緊急性	○危険度調査結果 : 平成26年度に実施した耐震性調査の結果、耐震性を有していない ○過去の被災履歴 : 5年以内に国庫補助事業で改修済 ○応急対策の実施状況 : 低水管理を実施、平成28年度にハザードマップを作成・配布				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : H27年度 住民を対象としたため池耐震調査結果説明会を開催 ○地域の取り組み : 耐震性点検、ハザードマップ作成において、積極的な住民の協力がある ○地域の合意形成 : H29.2.22 地元自治会で計画説明会を開催 ○住民との協働 : 多面的機能支払事業により、住民がため池の管理や簡易な補修を実施				評価	A
	所管課意見	災害発生時の下流域への被害が甚大であることが予想され、被害を未然に防止するためには、早急な対策工事が必要である。				採択状況	○
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				総合評価	A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	浅間池は、江戸時代に築造され、以降、洪水吐、波除護岸等の部分的な改修は行われているが、堤体本体は改修されていない。 また、堤体上下流の法面が急勾配となっており、堤体の安定性が確保されていないため、早急な対策が必要となっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成26年度に実施した耐震性調査の結果を公表し、地元住民、施設管理者と打合せを行った結果、改修の強い要望が出された。 対策工事に先立ち、平成28年度に、地元住民の意見を取り入れて、ため池ハザードマップを作成。H29.3.17各戸へ配布。
③事業説明等の経緯	H29.2.22に、施設管理者に対して説明会を開催し、合意を得ている。 併せて、地元自治会、地域住民への説明会も開催している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第2期長野県食と農業農村振興計画、第7次土地改良長期計画、長野県強靱化計画、上田市地域防災計画に基づき、ため池の耐震対策を行うことで、災害の未然防止による地域の防災安全度の向上と農業生産の維持及び農業経営の安定を図る。 多面的機能支払事業の活動組織が設立されており、ため池や農地が適正に維持管理されている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	本地区周辺は、多数のため池を擁している田園風景の広がる地域で、ため池の東側は上田リサーチパーク、北側は長野大学等の施設が多数存在する。また、ため池下流には農地及び市道が存在し、決壊時の被害は甚大である。 また、動植物への配慮として、ため池内の魚類については、施工に先立ち移動を行うとともに、計画区域内に貴重な植物を確認した場合は、移植が可能なものは、工事の影響がない場所へ移植を行い、移植ができないものは回避に努める。
⑥地域活性化への影響と配慮	災害が未然に防止されることにより、優良な農地が保全されるため、国産農産物の安定供給、地産地消が図られる。 また、本地区のため池を含む「塩田平のため池群」がため池百選に選定されており、ため池や農村景観が保全されることにより、観光資源として地域の活性化につながる。
⑦その他	特になし

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36° 21' 46"
東経:E 138° 13' 48"